



Q：友人がギラン・バレー症候群と診断されました。どのような病気でしょうか。

A：ギラン・バレー症候群は、運動神経の障害による、左右対称性の四肢筋力の低下を主徴とする疾患です。約3分の2の症例で前駆症状を認め、咳・発熱・咽頭痛などの感冒様症状や、下痢などの消化器症状を示します。そのため、ある種のウイルスや細菌感染が引き金となり、自己抗体を介した免疫異常によって神経細胞が障害されて起る病気と考えられています。

多くの症例では、前駆症状が軽快して1〜3週間を経て発症します。症状の発現は急

性で、第4週までに極期に達し、進行が停止します。四肢筋・顔面筋などの進行性の筋力低下と同時に、手指・足先のじんじん感など、異常感覚がみられます。運動障害に比べて感覚障害は軽いのが特徴です。呼吸筋の障害が起こった場合は、人工呼吸器が必要になることがあります。

一般に、予後は良好で進行停止後2〜4週間以内に回復期に入り、3〜6カ月で完全回復しますが、5〜20%の症例で、軽度の運動まひや感覚障害などの後遺症を残すことがあります。



(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニッコー北口駅前ビル2F)

☎055・288・1801